



水戸市男女平等参画基本条例の啓発と  
男女平等参画社会の形成と促進のために

# WAVE 第22号

発行日：令和3年6月30日  
発行：特定非営利活動法人  
M・I・T・O 21  
〒310-0851 水戸市千波 508-34  
発行責任者：黒澤輝子

## ごあいさつ



令和3年度第13回通常総会が久しぶりの対面で無事終了しました。昨年は新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言下で、書面議決という形をとり、会員の皆様との会合もあまり開催をすることが出来ず、毎年企画運営をしていたヒューマンライフシンポジウムも延期になりました。

本年は本法人の設立のきっかけとなった日本女性会議2001みとが行われて20年です。そして水戸市男女平等参画基本条例施行20年と記念すべき年になります。この基本条例20年を記念してのヒューマンライフシンポジウムを大々的に開催したく、準備を始めたところです。ただこのコロナ禍の状況を見据えながら今年度の事業を進めることは、シニア層の多い会員のリスクを考えると狭い室内で会議を行うことが昨年同様まだまだ厳しいようです。先日は久しぶりに、外での会合を試み、旧水戸城の一枚瓦城主・市民の協力で出来上がった大手門、二の丸角櫓を『水戸学の道』をたどりながら、水戸の歴史に思いを馳せる時を過ごしました。

私たちは水戸の歴史をよく知り、水戸の街に誇りを持つことが、日本遺産を世界遺産に引き上げる力になると案内役の「あしたの学校」の若いお二人が力説しておりました。

今年度「あしたの学校」は正式に本法人に加入され、事業推進に積極的に関わって下さることになりました。今後の活動にはオンラインでの会議やIT(インターネット)を駆使して進めなければなりません。今までのシンポジウムですと、皆様の協力を得て、講師選定からテーマやポスター、チラシ作成、会場準備などの細々としたことを順次進めてきましたが、今回は対面で出来るのか!?から始まり、万が一緊急事態宣言が再び起きたらとの備えを考えながらの準備をしております。

水戸市男女平等参画課と協議を重ねながら、着々と進めていきますので、会員の皆様にはご支援、ご協力をお願い申し上げて、令和3年度初めのごあいさつとします。

### 目次

- |                 |                         |
|-----------------|-------------------------|
| 1, ごあいさつ・・・1頁   | 3, 小松崎節子さんのお話を聞く会・・・3頁  |
| 2, 新清掃工場見学・・・2頁 | 4, 歴史探訪―「水戸学の道を歩く」・・・4頁 |

## 水戸市清掃工場(えこみっと)見学

令和2年11月16日(月)13名参加

水戸市は4月から新清掃工場稼働とともに新しいゴミの分別や回収方法が変わりました。

「えこみっと」とは環境に優しく「エコ」な清掃工場であること、「コミット（責任を持って積極的に挑む）」すること、「水戸」を組み合わせた造語でこの施設の愛称です。遠くからは煙突が目印で見えましたが、新しい信号機を右折し、いよいよ間近になると死角になって不安になるほど周囲がまだ何も無い広々とした開発途上の場所です。

まず管理啓発棟に環境学習室と会議室が備えてあり、そこでビデオによる清掃工場の全体像と水戸市のゴミ対策のポリシー3R（リユース・リデュース・リサイクル）の学習です。

市内全域から集められたごみを焼却する能力が1日330トン、燃やす時に発生する熱を効率よく回収して発電を行う発電所の機能を持っています。焼却後に出る灰もセメントや人口砂などの材料として利用されることを聞きました。

ごみはプラットホームでごみ投入扉からごみピットへ。

ごみピット容量は市内のごみ約7日分貯められる大きさ

です。そのごみをクレーンが攪拌して安定的に燃えるよう、ごみ投入ホッパ・シュートから焼却炉へ送り込まれるところ

を4階の窓から見学しました。24時間全自動で動くクレーンを中央制御室で数人の職員が目を光らせて管理しています。

焼却炉の温度は850度以上の高温でこの熱を回収して蒸気タービン発電機を動かし発電(1時間9559kW)になる。これは市内2800世帯の1時間賄える電力量だそうです。またリサイクルセンターでは分別し資源化されるもの55トン。ここでは燃えないゴミ(粗大ごみ、ビン・缶類、ペットボトル、白色トレイ、プラスチック製容器包装)それぞれストックヤードに貯められ、缶類は磁石や目視でスチール缶、瓶は無色、茶色、緑色に手選別、アルミ缶選別と手作業され、これは機械化されずに頭が下がる思いです。布類、紙類(新聞紙、段ボール、紙パック、その他の紙類)それぞれストックヤードがあり、資源となるものは選別し、圧縮・梱包して、業者に売却される。

粗大ごみ、有害ごみ(蛍光管、水銀体温計、スプレー缶、乾電池など)でも破碎の過程で鉄やアルミ等は資源化される。どうしても再利用できない重金属類は、最終処分場で15mの深さのところに埋められることになっており、いっぱいになるのには30年かかるだろうとのことでした。



熱心に焼却の流れを見る



巨大ホッパーの前で

今のゴミ処理方法を市民が良く学び、再利用できる資源をいかすことが出来るようになれば、ゴミは減っていくはずだと見学案内をされた担当者が言っておられました。私たちはSDGsの世界的開発目標を学んで、「持続可能な生産と消費の確保」「つくる責任、つかう責任」大量生産、大量消費という生活を変えていかなければならない、資源を守る水戸市清掃工場のコンセプトはこの目標に沿った施設であり、市民も環境負荷の少ない循環型社会の規範とならねばならない!と強い思いを強くした研修でした。

楢崎ひろ子：記

## 水戸公衆放送小松崎節子さんのお話を聞く会

令和2年12月23日(水)

新型コロナ禍により世界規模の自粛生活の中、私たちの生活は一変してしまいました。このように制限されてしまった日常が余儀なくされてしまうと、過去を振り返り「あの時もっとできることがあったはずなのに」と反省ばかりです。



今回の水戸公衆放送社長小松崎節子さんのお話を聞く会も、当初の計画から何度も延期され12月23日やっと開催することができました。街頭放送という媒体を通し、永年水戸市民に情報を提供されてきた小松崎さんは、今年度の水戸市男女平等参画社会づくり功労賞個人の部を受賞されました。会員の皆さんには昨年度のヒューマンライフシンポジウムの司会でおなじみかもしれません。実のところ新型ウイルスコロナ禍でなければ、ヒューマンライフシンポジウムの壇上で多くの市民の前でその功績が讃えられての表彰式となるところでしたが、時節柄関係者のみの表彰式となりました。

現在公衆放送は北海道に数カ所あるのみで、本州では水戸のみであるとのこと。

それもお一人で維持継続されてこられた道のりのお話しは山あり谷ありで、あの小柄な体のどこにエネルギーが潜んでいるのかと驚嘆するばかりです。また、東日本大震災遭遇時の天と地がひっくり返ったような中で、市民に情報を届け続けてくれたこと、翌年の黄門祭りなどのわが身を省みないで奮闘されたことなど、いつも耳慣れている私たちはつい当たり前に受け止めてしまっていたことに反省し、恥ずかしさを感じました。

また、一人で放送を背負っている傍ら、「サザエさん」こと加藤みどりさんの門をたたき、厳しい特訓の数々など、プロとしての矜持を感じ益々尊敬するばかりです。

小松崎さんが守り育ててきた水戸公衆放送ですが、その意思を継いでくれる方を…と結んでおられました。私たちも水戸市の貴重な財産としてなんとか継続できる道を模索するためのお力になればと思いました。

最後に、コロナ禍で車の通りが少なくなったのか!目抜き通りを歩いていると小松崎さんの声ははっきりと聞こえてきますよ。

\*「水戸の女性史」をつくる会のレポート第13号に、米川久子さんのインタビュー記事が掲載されています。是非ご覧下さい。兼子千恵子：記



水戸駅北口から二の丸角櫓を望む

## —歴史探訪— 令和3年5月22日(土)

「水戸学の道」—水戸の歴史を辿る学習会として水戸駅周辺を参加者12名で散策しました。

ヒューマンライフシンポジウムで協力関係にある「あしたの学校」の深谷さん、佐川さんに案内いただきました。知的好奇心をくすぐるレクチャーを受けながらの行程です。

これは市民運動から始まった水戸城跡周辺整備の完了を辿るコースでもあります。水戸駅北口から「水戸城二の丸角櫓」(6月27日から公開予定)の眺望からスタートして「水戸学の道」を歩きます。

ガイドの深谷さんの歴史好きを唸らせる解説といくつもの新しい案内版が「水戸学の道」なる水戸の歴史の深淵に私たちをいざないます。古き時代を偲ばせる薬医門から大手門(令和元年度完成)までの白壁の道の静ひつな雰囲気は情緒たっぷり、歴史に浸らせてくれました。



水戸黄門像前から出発です

「水戸城跡二の丸展示館」では渋沢栄一翁と水戸の人々との関わりがパネル展示してありました。

また「弘道館」でも日本の近代化に貢献した彼の業績が称えられていました。日本人の精神性、生き方としての哲学や思想に水戸学が少なからず影響を与えたとあり「歴史に学んで今と未来に生かす」などと現代への訓示を残しています。

水戸を語る上では欠かせない「大日本史」は徳川光圀による水戸藩の事業としてスタートし、250年かけて明治時代に完成した歴史書です。広大な構想のもとにリーダー達を順次輩出した水戸という地には、文明の継続発展に欠かせない学問への畏敬の念があったのではないのでしょうか。

渋沢栄一翁の人格や人間味の一端に水戸学が関わっていたことを誇りに思いました。



弘道館正門にて

水戸市は歴史の街であると理解しつつ、なかなか実感できずに暮らしている私たちです。那珂川と千波湖に挟まれた馬の背の台地に花開いた水戸城の歴史を改めてこの散策で味わいました。

平成27年に認定を受けた「近世日本の教育遺産」に続き、「世界遺産をめざす」気運で市民の中にもっと高まるように祈ります。今回案内役をして下さった「あしたの学校」と若い世代を頼もしく、期待が膨らみました。

田山和子：記

**編集後記**：令和という年号になってから、一昨年はいきいき夢国体で茨城が脚光を浴びました。次はオリ・パラ、世界中のアスリートの祭典!! が新型コロナウイルス感染症は世界中の人々を巻き込んで、未だ収束の糸口がつかめない・・・私たちの活動は影響をまともに受けています。前の日常に戻りたい、誰も思うことは同じです。早くコロナという言葉が消えて欲しいと。事務局